

Web2.0時代の気象ポータルサイト「tenki.jp」リニューアル概要と事業構想

*木村 洋一・横内 絢子・和田 愛子・藤原 有衣子・松田 祥二郎（財団法人 日本気象協会）

1. はじめに

Web2.0へのシフトが進むインターネットビジネス市場の急速な成長へ対応していくために、日本気象協会が事業運営する気象ポータルサイト「tenki.jp（URL: <http://tenki.jp/>）」をweb1.0型事業モデルからweb2.0型事業モデル対応のユーザ参加型サイトへリニューアルを図った。本稿は、リニューアル概要及び今後の事業構想について報告するものである。

2. tenki.jp 事業構想

新しいtenki.jpは、広告事業型ビジネスモデルで運用する。大手インターネット広告事業者と事業提携することで収益の安定化を図り、利用者に付加価値の高いコンテンツを継続して提供していきたい。特筆すべき事業構想は、下記のとおりである。

- Web2.0技術・サービスモデルを駆使したサイト設計・構築により、PV（ページビュー）・UU（ユニークユーザ）の増加を図る。
- 気象ポータルサイト部分（web1.0型コンテンツ）の表示にはFlash技術を適用し、画像系コンテンツの機能性向上及び表示の美しさを追及する。
- ユーザ参加型コミュニティ（web2.0型コンテンツ）をサイト内に創造し、「天気をもっと楽しくする」コンセプトを使命にサービス展開を実現する。

tenki.jp ロゴを図1に示す。



いる。一般的にβ版公開とは「開発途上版での公開」「製品直前段階の評価版」を意味するが、私達がtenki.jpロゴに込めた意味はまったくこれと異なる。

ロゴに添えたβは、「tenki.jpはリリースをもって完成ではなく、進化し続けるサイトとして、これからも利用者に高い価値を提供していきたい」という私達開発チームからのメッセージが込められている。

3. tenki.jp リニューアル概要

リニューアル後のtenki.jpコンテンツは、従来の天気予報、防災情報（地震情報、津波情報、注意報警報、台風など）、気象レーダ、気象衛星画像、天気図、レジャー情報、指数情報といったweb1.0型コンテンツに加えて、一般利用者（コンシューマ）参加型機能の実装による新しいweb2.0型コンテンツを、気象ポータルサイトとしては国内で初めて導入した。

mixi やGREE など、急速な事業成長を実現しているSNSサイトと同様の“双方向型コミュニティ機能”を気象産業に導入することで、インターネット時代の気象

コンテンツ事業のあり方を利用者へ提示したいと願っている。

web2.0型コンテンツとして実装するのは、写真や天気質問箱などの投稿機能、友人同士が天気を通じたコミュニケーションを生むヒトコトブログ機能、会員登録により自分だけのカスタマイズページが持てるMyページ機能に加えて、目玉コンテンツとして「みんなの気持ち」と題するコンテンツを実装している。これは、tenki.jp利用者が書き込んだ季節の話題やヒトコトブログ、インターネット上のトラックバックやブログから天気や気象に関するコメントを収集し、地域毎の気象現象に関する“気持ち”をリアルタイムに収集して表示する新しい価値観のコンテンツ提供である。

主要コンテンツの表示例を図2～図3に紹介する。

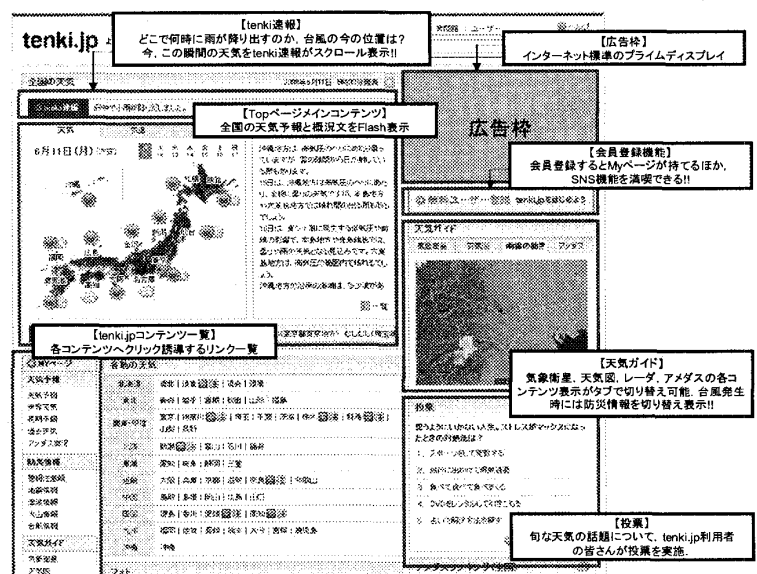


図2 tenki.jp トップページ表示

4. 今後の展開

新たなweb2.0型サイトとして生まれ変わったtenki.jpは、今後、参加する利用者の投稿やコミュニケーションにより、更なる事業価値を創造していくであろう。

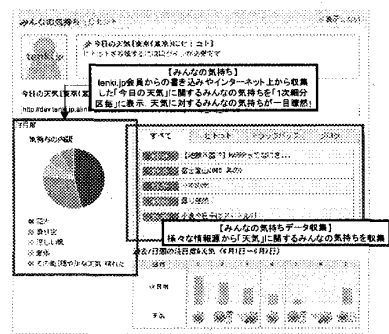


図3 みんなの気持ち表示

特にweb2.0型コンテンツである「天気質問箱」や「みんなの気持ち」は、昨今の理科離れ対策や防災啓発等に貢献することが期待される。今後は、一般利用者への気象知識の普及啓発に寄与するサイトとしての価値を高めてゆきたい。当事業の開発チームでは、気象学会関係者各位の積極的な利用及び参加を期待している。